

FAN

子どもの頃の読書



効果あり

読書量が少なくなる「読書」も調査で判明!

自己理解力等

自分には自分らしさがある

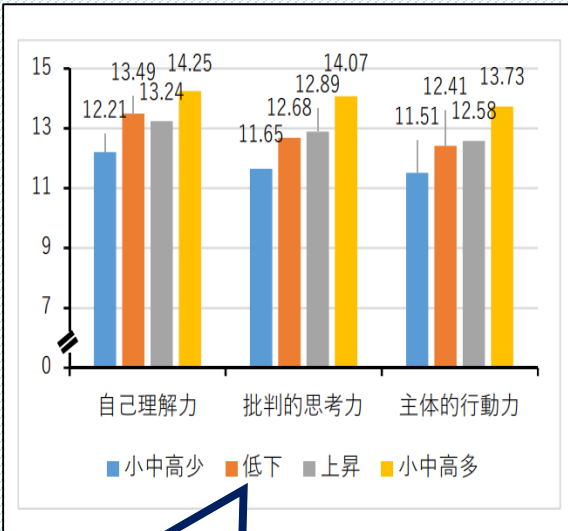
など

国立青少年教育振興機構は、子どもの頃の読書の効果が、大人になった後、どのような影響を与えているのかについて調査・分析した。
(令和三年八月)
その結果、小中高を通して読書量が多いと回答した人は、読書量が少ないと回答した人に比べて、自己理解力、批判的思考力、主体的行動力が高い傾向にあることが分かった。

が高い傾向に

- **自己理解力**
「自分には自分らしさがある」「今の自分が好きだ」などの自己肯定感を含む。
- **批判的思考力**
「ものごとを順序立てて考えることが得意だ」など客観的、多面的、論理的に考える力、自分あるいは他者の意見をまとめる力などを含む。
- **主体的行動力**
「分からないことはそのままにしないで調べる」など何事にも進んで取り組む姿勢や意欲を含む。

子どもの頃の読書量グループによる意識・非認知能力の違い



小中高少・・・小中高を通して読書量が少ない
低下・・・小中高で読書量が低下している
上昇・・・小中高で緩やかに読書量が上昇している
小中高多・・・小中高を通して読書量が多い

読書量が **多く** なる読書経験

- ジャンルを問わずに読むこと
 - 同じ本を繰り返し読むこと
 - 地域の図書館で本を借りたこと
 - 目次、前書き、解説など本文以外の部分も読むこと
- など

読書量が **少なく** なる読書経験

- 1日に読むページを決めて読むこと
- 著者がどのような人か理解してから読むこと
- 学校や市の推薦図書を選ぶこと

こんな「読書」で、本が嫌いに? 好きに? 読書量の多さ、少なさに関連する小学校高学年の読書活動に関わる経験についても、同調査で明らかにした。